

5月8日(金曜日)「ソロモン(10)王国の分裂」

【新改訳 2017】

I 列王記 12・1—33

「しかし、ユダの町々に住んでいるイスラエル人は、レハブアムがその王であった。……全イスラエルは、ヤロブアムが戻ってきたことを聞き……彼を……王とした。……『ユダの王、ソロモンの子レハブアム……』」(17-23節)

この引用は、読むだけで混乱してしまうものです。王国はついに分裂して、北王国(イスラエル)と南王国(ユダ)の2つになってしまいました。そして、ソロモンの子レハブアムは、全イスラエルの王からユダとベンヤミンの二部族、すなわち南王国の王になり、北の十部族は、ソロモンの家来だったヤロブアムを王にしました。その後、レハブアムとヤロブアムの間には、いつまでも戦いがありました(14・30、15・6参照)。

このような歴史的記録は、事実を伝えると同時に、教訓も与えます。これは、神が繰り返し警告されたことの成就でした。神は決して侮られるお方ではありません(ガラテヤ6・7参照)。私たちは、神の警告のこともにも耳を傾けているでしょうか。

～祈り～

主よ。あなたの選びの民の指導者たちの間に、醜い争いがあったことを悲しく思います。どうか、今日の教会の指導者たちをあわれみ、互いに争うのではなく、助け合って宣教に励むことができるようにお守りください。

【学びのために】

レハブアムはソロモンの息子。父の死後、王位に着いたが、王国の分裂で南ユダの最初の王となりました。

ヤロブアムはソロモンの家来。北王国イスラエル(十部族)の王となり、後に偶像礼拝を取り入れ、その後の王たちに悪い見本を残しました。